

輸入ダコに混入した杭状の異物くいじょう

次長 上田幸男，環境増養殖担当 主任 中西達也

Key word ; タコ，ウニ，棘とげ，底びき網

平成 23 年 6 月に県内の水産加工会社から「中国から輸入したタコを加工し、販売したところ商品に杭状の異物が混入していたとクレームが付き、困っています。一度、ものを見ていただけませんか」と依頼がありました。「そもそも輸入した原材料のタコに付着あるいは筋肉中に刺さっていたものか、それとも加工中に陸上由来の異物が混入したものかわからない」と話されていました。

実体顕微鏡で拡大したところ、その異物は直径 3~4mm、長さ 1.4cm の小さなコンクリート製の杭のように見えました(写真 1)。先端は折れて紛失していますが、よくみると根元から 3mm 以上の上部には小さな突起が列状に並んでいるのが確認できました。このような小さいものに人間が突起を列状に配置することは難しく、この異物は生物由来のものだと見当がつかしました。また、依頼者は、「この異物は石灰質の貝殻のように柔らかく、ヤスリなどで削ることができる」と話されていました。石灰質で棘状とげといえ、ウニの棘とげか、サンゴの骨片こっぺんが思い浮かびます。ウニの仲間が含まれる棘皮動物きょくひの図鑑を調べたところ、マツカサウニ等この棘とよく似た太い棘を持つウニが数種見つかりました。

さらに、水産無脊椎動物の分類に詳しい徳島大学総合科学部の濱野龍夫教授に鑑定していただいたところ、「種名はわからないがウニの棘に間違いはない」とお墨付きを頂戴しました。先生も下関の水産大学校に在職中にも同様の鑑定を依頼された経験をお持ちで、「おそらく底びき網で漁獲されたタコに混獲したウニの棘が折れて刺さったのではないか」と話されていました。

依頼者にこの結果をお知らせしたところ、異物が加工の過程で混入したものではないことがわかり安堵されていました。



写真 1 鑑定されたタコの加工品に混入した杭状の異物。読者の皆様は何に見えますか。答えはウニの棘です。左端は根元で、筋肉と結合組織が付着するため、突起がありません。